

退職から半年

3月末に退職して、なにかと「自由な身」？ になって、もう半年になる。このレポート集を再開した2ヶ月間に、私なりの思いをレポートにて発信してきたが、ちょうど良い機会なので、半年間を振り返っておきたい。

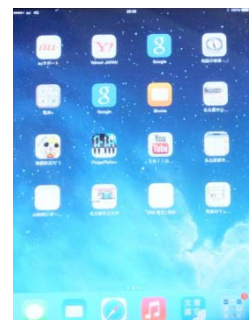
とにかく4月からは、35年にわたる「教員生活」とは違う日々を送ることになった。3月末までは講義や会議、その間に学生・院生との「面談」などに追われる毎日であり、自由になる時間は連続してあまり取れなかった。退職後は時間的に自由がきくようになり、心にゆとりをもち、それなりに自分をコントロールできるようになった。

これまで長い間、なにかと理由をつけて先延ばしにしてきたことが多かった。退職後には集中的に作業して、短期間に「成果」をあげられるようになった。その一つが『災後の新聞』の刊行である。退職前から構想だけはしていたが、書きためていた原稿をまとめて出版社に出向き、かなりの書き直し・校正を経て出版にこぎつけた。現役の頃には考えられないスピードである。買って積んでおいた本もどんどん読み、前に読んだ本を再読してノートに取ったりして、研究の「ストック」も蓄えてきた。問題は中長期的に「ストック」を活用し、どうまとめていくかである。

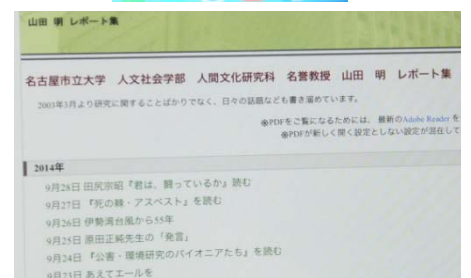


4月最初から、こんなペースをつかめたわけではない。いま考えると、ペースをつかむうえでの「条件」があったように思う。自宅に「閉じこもり」の生活から、できるだけ朝早くから図書館など「外」で作業をすることに切り替えた。これまでのように歩くようになり、生活のリズムを取り戻せた。長い間、もっぱら大学の研究室で仕事を続けてきたこともあり、それに代わる「場」を確保できた。図書や資料で溢れた研究室のありがたみを、今さらながら痛感している。

それと中ほどの写真にあるように、退職記念として? iPad を買い、外でも情報や資料の検索、論文やレポートのチェックができるようになった。写真も便利だ。図書館などで新聞記事も写真に撮って、必要な時にじっくり読むようにしている。



このiPadも活用しながら、下の写真のように、7月30日から4年ぶりに「レポート集」を再開して、連日レポートを書きサイトに掲載してもらっている。私のレポートを待っていてくれる「読者」もいるようで、早朝などにレポートを書くのが習慣のようになってきた。サイトの管理者と「読者」の皆さんに感謝するばかりである。今では書きたいこと、発信したい情報が増えてしまい、書く順序に悩むほどになってきた。



(2014年9月30日)